

特集テーマ① 学校での取り組み

小学校



端末の活用により、一人一人が情報を検索し、新聞記事や動画等を収集・整理することができます。教科書に記載されているQRコードを活用して、情報にアクセスすることもできます。

【新見市立上市小学校】



一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導も可能になっています。発展的な問題にチャレンジしたり、苦手な問題を繰り返し復習したりすることも可能です。

【和気町立佐伯小学校】

中学校



プレゼンソフトを利用して、自分自身の考えをまとめて発表する取組を行っています。他者に分かりやすく紹介するためには、どのような工夫をすればよいか考えながらスライドを作成しています。

【倉敷市立玉島東中学校】



端末のカメラ機能を利用して、マット運動の様子を撮影し、動画で動きを確認しながら練習を繰り返しています。撮影した動画をすぐに確認できることから、実技を伴う授業での活用が広がっています。

【玉野市立荘内中学校】

高等学校



海外の姉妹校とオンライン交流を実施しています。端末を活用して1対1でコミュニケーションをとることにより積極的な交流ができ、英語の学習に対する意欲も向上しています。

【県立倉敷南高等学校】



教師が作成した模範動画を見ながら練習を繰り返すことができます。完成に至るまでの過程を写真撮影してデジタル化することにより、自分自身の学びや成長を振り返ることもできます。

【県立高梁高等学校】

特別支援学校



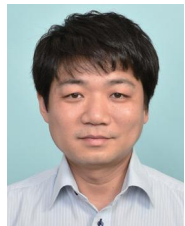
呼吸スイッチ（入出力支援装置）を使ってポインタを操作し、文字入力をしたり、画像を選んだりすることができます。身体機能の状態や体調の変化などに応じて、意思の表出を補助しています。

【県立岡山支援学校】



グループで調べ学習を行っています。端末の画面を見ながら活動することで、相手が理解しやすい説明を行うことができます。

【県立倉敷琴浦高等支援学校】



保護者の皆さんへ

文部科学省ICT活用
教育アドバイザー

聖心女子大学

益川 弘如

先生からのメッセージ

日本の子どもたちは、海外の先進諸国に比べてICT機器を学びの道具として利用する割合がとても低い一方、遊びの道具としては多く使われていると言われています。そのような中、GIGAスクール構想によって、小中学校に1人1台の情報端末が整備されました。岡山県では、学びを深める道具として子どもたちが賢く活用できるようになることを目標に、3つのSTAGEを設定して、計画的に取り組みされている点が注目しに値します。情報技術の高度化が進むSociety5.0に対応した情報モラルを着実に身に付けさせつつ、令和時代の新しい学び方で教科等を学ばせていく取り組みは、これからの時代に必要な資質・能力の育成につながるでしょう。子どもたちの今後の成長がとても楽しみです。